

(様式 13)

氏名(本籍) 草野 緑(埼玉県)
学位の種類 博士(歯学)
学位記番号 歯甲 第412号
学位授与日 2023年3月15日
学位授与の要件 博士の学位論文提出者(学位規程第11条第1項該当者)
学位論文題目 出生状況が摂食機能獲得時期に与える影響の後方視的検討

論文審査委員 (主査) 教授 大岡 貴史
(副査) 教授 星野 倫範
(副査) 教授 村本 和世
(副査) 教授 須田 直人

論文内容の要旨

本研究の目的は、低出生体重児の摂食機能の獲得時期を臨床で用いられている摂食機能評価を用いて評価を行い、効果的な支援を行うために適した時期を明らかにする事である。2010年1月1日から2021年12月31日までの期間に、明海大学歯学部附属明海大学病院および某医療センターにて摂食指導を複数回受けている12歳未満の児134名を対象とした。児を低出生体重児群と正出生体重児群の2群に分け、摂食機能発達状況について後方視的に検討を行った。診療録から、摂食機能、運動機能、在胎週数、NICU入院経験、経管栄養の経験、行政サービスの利用について調査を行った。

経口摂取準備期、嚥下機能獲得期、押しつぶし機能獲得期、自食準備期、定頸、寝返り、座位、つまり立ちの各獲得時期に有意差を認めた。摂食機能、運動機能共に影響を与えている因子は在胎週数であり、次に影響を与えている因子は行政サービス、摂食機能に共通した影響因子はNICU入院経験、自食準備期においては性別も影響していた。摂食機能獲得時期に対する運動機能獲得時期の影響については、すべての摂食機能において座位の獲得時期が影響を与える因子であった。

在胎週数に関しては負の相関が認められ、NICU入院経験と性別は相関が認められなかった。摂食機能と運動機能の獲得時期については、すべて正の相関が認められた。

以上のことから、運動機能と密接な関係があり、早い段階で介入できる嚥下機能獲得期に対して、支援を行うことは効果的と示唆された。

論文審査および試験結果の要旨

本論文は低体重出生時の摂食機能の獲得時期について摂食機能評価を用いて、支援介入の適切な時期を明らかにしたものである。本論文における統計学的検討の結果、嚥下機能獲得期における支援介入が有効であると示唆された。これは、小児の摂食機能の発達を支援していく上で臨床的に極めて意義のある内容であると思われる。

明海大学大学院歯学研究科歯学専攻 草野緑に対する最終試験は2023年1月12日、主査 大岡貴史教授、副査 星野倫範教授、村本和世教授、須田直人教授の4名により行われた。論文審査並びに専攻学術に関し、口頭試験をもって実施し、合格と認めた。また、草野緑の語学試験は、大学院入試試験の外国語試験の結果をもって合格とした。

よって、申請者：草野 緑は、博士(歯学)の学位を授与されるに値するものと判断した。